

板橋・旧粕谷家住宅 見どころ

—古民家と庭の四季—

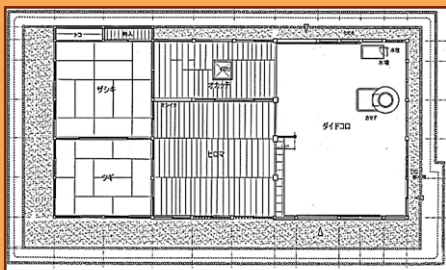
● 300年前の古民家

旧粕谷家住宅は、土間と板間の境に3本の大黒柱、床の間の源流とされる「^{おしいた}押板」、^{しつらい}「しし窓」、3間四方の広い板間という4つの特徴をもっています。いずれも江戸中期まで遡ることができる関東地方の古い民家に認められる特徴であり、最古級の古民家のひとつに数えられます。ほかにも、茅葺き屋根には、軒天井や寺院建築を思わせる^{くりがた}線型彫刻、わずかな軒反りが認められ、一般の農家には見られない特徴も見られます。

敷地は土地区画整理組合事業などの影響で、旧来の範囲とは異なりますが、屋敷の庭として整備されており、家屋と一体となった落ち着いた空間を構成しています。

また、旧粕谷家住宅では、年に3～4回、室礼教室を開催しています。「室礼」とは、年中行事や人生の節目に、私たちの心を季節の花や野菜、くだものに託して、床の間や玄関、棚の上などに飾り、心豊かに楽しむものです。庭や年中行事を通して、四季折々の旧粕谷家住宅の姿をご覧ください。

区HPに旧粕谷家住宅の詳細を掲載しています。



間取り

～四季折々～



～室礼教室～



押板

「しし窓」

3本の大黒柱と板間



端午の節句



七五三

※令和3年1月より、管理棟・放水銃設置工事のため、見学できなくなります。